

8-4-9 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会開催

専門委員会開催回数：10回

4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、技術委員会の報告・連絡、本年度検討項目の審議等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発し、特に、7月の西日本豪雨災害や9月の北海道胆振東部地震等が発生した。平成30年の土砂災害発生件数は3,451件（土石流984件、地すべり129件、がけ崩れ2,338件、平成30年12月26日現在）に上り、近年最多の発生となった。また、その被害は、死者161名、負傷者117名となっている。

当専門委員会では、これら災害調査等の支援を行うとともに、砂防技術の向上を図る観点から、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討し、それらに基づき委員会活動を実施した。

(3) 平成30年度の活動

- a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（平成29年版）を作成した（A3版表裏1枚）。
現地見学会、砂防講習会等で会員に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。
- b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を10月18日に実施し、砂防関係業務の現状と課題について意見交換を行った。
- c) 第13回砂防現地見学会は、北陸地方整備局湯沢砂防事務所管内で9月7日に開催した（23社52名参加）。見学場所は、大規模な補強改築工事現場の大源太第1号砂防堰堤等を見学するとともに本対策に関する計画・設計に関し座学による意見交換を行った。
- d) 平成29年度業務等に関するエラー事例等の収集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。
品質セミナー（全国9支部）へ講師を派遣し、

説明を実施した。

- e) 第9回砂防講習会を11月1日に開催した（55社、119名参加）。講師は、国土交通省砂防部岡本敦保全課長に「これからの砂防行政について」、国土技術政策総合研究所桜井亘深層崩壊対策研究官に「平成30年7月豪雨等近年の土砂災害の特徴」、国土交通省中部地方整備局杉本宏之富士砂防事務所長に「富士山における火山砂防の取り組み」、国土交通省砂防部岩男忠明企画専門官に「砂防分野の新技术の取り組み」同じく砂防部松下一樹企画専門官に「広域の災害調査を支える技術と取り組み」を講演頂いた。
- f) 砂防業務改善について、国土交通省技術調査課からの課題・要望への対応（共通仕様書、積算基準の見直し調査等）、砂防関係コンサルタント懇話会との意見交換会実施（1回）、砂防堰堤に関する補強・改築設計基準の統一方針（案）や斜め象限図、研修資料の検討を行った。
- g) その他、若手技術者交流会を開催し、若手技術者の発表技術の向上を図るとともに前年度作成したリクルート用のパワーポイントを用い日本大学等で説明会を開催した。また、鋼製砂防構造物設計事例集（Ⅱ）の配布を行った。

2. 次年度の活動について

令和元年度は、前年度に実施した継続事項を中心に取り組むこととする。

- a) 第14回砂防現地見学会を実施する。
- b) 品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を行う。
- c) 第10回砂防講習会を開催する。
- d) 国土交通省砂防部等との意見交換会を開催する。
- e) 平成30年度版活動パンフレットを作成する。
- f) 砂防業務改善において、国土交通省砂防部との意見を踏まえ補強改築に関する方針や、研修資料を用いた若手技術者研修や施工計画設計等標準報告書、若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会等を実施する。
(砂防・急傾斜専門委員会委員長 坂口 哲夫)